

## 新潟開港150周年記念 みなとまち新潟 歴史探訪⑨

問歴史文化課(☎025-226-2584)



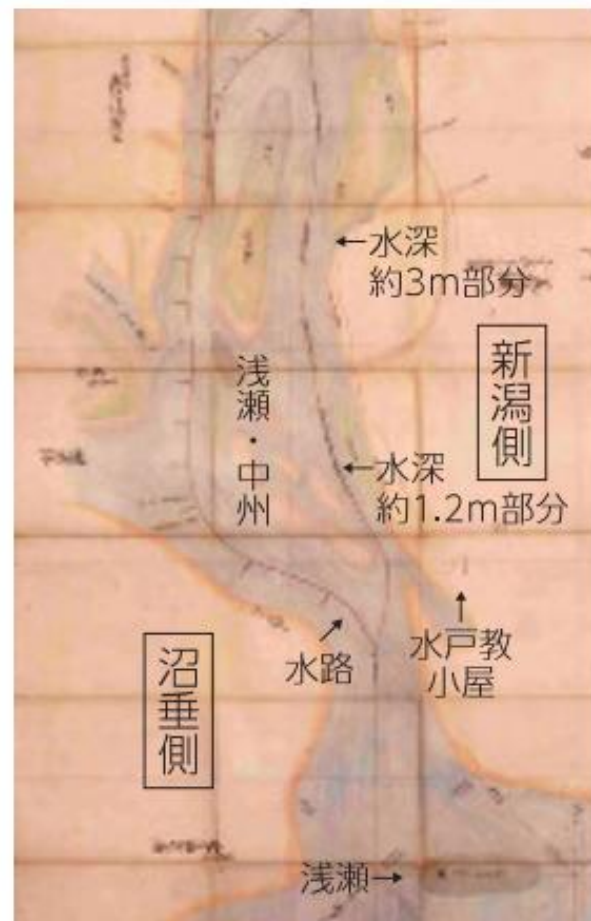
### 「水戸教」は新潟湊の案内人

「水戸教」の“水戸”とは船の通る水路のことで、水戸を教える、つまり水先案内をする人たちのことを、新潟では水戸教と呼びました。

新潟湊は信濃川河口にあるため水深が浅く、浅瀬の状態もよく変わりました。幕末の測量によると、新潟町側の水深は約1.2～3mしかありませんでした＝写真＝。そのため、大型船が入港できず、新潟の開港が遅れる原因のひとつとなりました。このような危険な新潟湊に必要なのが、水戸教でした。

水戸教は江戸時代半ばからは伊藤仁太郎家が務め、入港する船があると停泊地まで安全に誘導しました。また、座礁する船があった場合には、海難救助も行いました。伊藤家による水戸教は、近代的な港湾の整備により水深が安定する昭和初期まで続きます。

現在の新潟港では、国家資格を持つ「水先人」やしゅんせつ船が港の安全を守っています。



慶応3(1867)年の測量図  
(歴史博物館みなとぴあ蔵)